

WIN^{CONCORD} コンコード NEWSLETTER

留学生と共に 和歌山大学教育学部助教授 長友 文子

私は和歌山大学で留学生に日本語を教えています。和歌山に赴任してから今年で8年目になります。

最初の1年間は、全てが私にとって新しいことばかりで、何をどうしてよいのか全く分かりませんでした。和歌山に来る前は、東京にいて、早稲田大学、拓殖大学などで非常勤をしていましたが、非常勤の場合には、教えることにだけエネルギーを費やしておけばよかったのです。ところが、ここでは、留学生に関する諸々の事をしなければなりません。もちろん、今では留学生に関する様々なことを、彼等と共に考えたり、悩んだりするのが私の生活の一部になっていて、結構楽しんでしています。でも、来たばかりの時には、「えっ、なぜそういうことまで、私が関係しなければいけないの?」という疑問をもつばかりで、次々と起こる問題に対して、私は、どのように対処すればよいのか全く分かりませんでした。

そういう時期に、WINコンコードの方々の存在を知りました。

驚きました。最初は、和歌山には留学生が少ないから、あれほどまでに生活面をはじめいろんな世話ができるのだらうなあ、と思っていました。でも、それは大きな間違いでした。留学生数の問題などではありません。WINの方々は、ボランティアにかける精神というか、情熱というか、言葉にするのは大変難しいのですが、それがすごいのです。とにかく、留学生と共に、留学生の立場になって、支援して下さっているのです。

8年の間には、いろんなことがありました。そして今では、WINの方々の存在が当たり前になっている自分に気が付き、そんな自分を恥ずかしく思っています。WINの方々の支援がなければ、和歌山大学にいる留学生の生活はきっと味気ないものになっていることでしょう。4月の Welcome Party に始まり、花見、夏には花火大会、秋には紅葉見学、そして冬のスキー旅

行、3月になると Farewell Party などなど。大学ではとてもできない催しを、心をこめてして下さいているのです。しかも、毎年変わることなく。もちろん、そういった催しだけではありません。個人的にも、いろんな留学生から、WINの方々のお世話になっていることをよく聞きます。

支えてもらっているのは、留学生だけではなく、私自身も、WINの方々に支えていただいています。たまにしかお会いできませんが、WINの方々と留学生のことについてお話していると、気持ちが楽になります。私の留学生に対して抱えている悩みをすぐに理解して下さいます。

「国際化」「異文化理解」という言葉は、まだ流行っています。こういった言葉を単なる流行語としてしか捉えていない人も結構多いんですね。外国人と接しているだけで自分は国際人とでも思っているような人もいます。でも、良いときにだけ外国人と接していても、その外国人が何か問題を持ったときに、何人の自称「国際人」が、同じ立場に立ってくれるのでしょうか。実際に身体を動かしてくれるのでしょうか。頭で考えた言葉でいうのは簡単ですが、私たちにとって実行することは、なかなか難しいことです。その意味で、私は、WINの方々のボランティア活動のありがたさは素晴らしいと思います。私も、少しでも見習いたいと思っています。

WINの皆さん、これからも和歌山に来る留学生のことをよろしく願います。私もあなたの方の素晴らしい、本当の支援のあり方、ボランティアの姿を少しでも見習いながら、留学生と接して行きたいと思っています。この場をお借りして、これまでの感謝の気持ちを表したいと思います。本当に有り難うございます。そして、これからもよろしく願います。

二度目の日本

ダンコー アンドレア

(ハンガリー)

去年の10月に日本に来たのは今回2度目です。1999年の秋から大阪外国語大学で交換留学生として、1年間日本に住んでいて、日本語を勉強しました。

大阪から国へ帰る時、たぶんもう一回日本に来られないと思って悲しかったです。しかし、去年、文部科学省の研究生としてまた日本に来ることになりました。本当になつかしく思う場所がたくさんあります。日本は、国で過ごした1年の間全然変わっていなかったみたいな感じがします。この前に日本にいた時、もう見た所やもちろんまだ見ていない所へも行きたいと思います。

国の大学(ELTE)の日本文学授業で「宇治拾遺物語」について習ったことをきっかけにして、今回日本に来た時宇治へ行くことにしました。うちの大学の図書館で本棚に並んでいる物語を思い出して、日本で電車の地図を見て、日本人の知り合いに「すみません、宇治で何があるのか、何で有名なのか知ってる？」と聞くとよく次のように答えられた。「宇治ですね。あそこに何もないかなあ、たぶんお茶で有名と思う。」それなのに結局宇治へ行くことを決めました。和歌山からちょっと離れている所で、朝8時に南海電車に乗って、大阪へ行って、京阪電車に乗り換えました。電車の中で地図を見ながら、八幡市の近くにある男山を見かけました。そこで電車をおりて、ケーブルカーに乗って山の上に上がりました。男山の上にすごくきれいで、静かな岩清水八幡宮を見つけました。あの時まだまだ早朝だったので、山の上で、ちょっと寒い空気で木漏れ日は土で陰がみえて、人もあまりなくて、すごい印象でした。

本殿を歩き回ってから灯ろうの道で神馬居まで行って、それから回り道で山を降りました。また電車に乗って、宇治まで行きました。駅の近くにある観光案内所で地図をもらって、歩き始めました。たぶん、平日だったから、宇治でも人がそんなに多くなかった。

時間は短くて、早く平等院へ向かいしました。回りの道のおみやげ店では本当にお茶やお茶で作ったお菓子ばかりでした。

平等院の庭園を歩き回って、保障館で雲中供養菩薩像などを見ました。平等院全体はきれいでしたが、そんなにびっくりするほどきれいとは思いませんでした。実はその前に見た岩清水八幡宮の方がもっと好きになりました。平等院から、また地図に従って宇治神社や宇治上神社を訪れてから源氏物語ミュージアムへ入りました。外から見た建物は、中でもすごく近代的でしたが、春や秋の部屋と浮船の物語を展開する映像展示室で源氏物語の世界をおもしろく表現されたミュージアムであったと思います。

それから駅へ戻って北へ向かって、嵐山へ行きました。もう、午後になって、あまり時間がなくて、嵐山駅からはやく天竜寺を見に行きました。それから、竹の道を歩き始めて、紅葉の季節はもう終わっていたので、静かな嵐山で暗くなるまで散歩しました。

それから、河原町によって、夜和歌山へ帰りました。ハンガリー語で書かれた日本のガイドブックは岩清水について何も書いていません。なぜなら、有名な場所、観光客がいっぱい行っている所についてしか書いていません。

たぶんそんなに有名ではない所の方がおもしろいと思う。それほど有名な所で、何かを期待して行ったら思い違いするかもしれません。

日本にいる間、たくさんガイドブックに載っていない所に行きたいと思います。



私の故郷 ポーランド

ロザリア ヴロナ

(ポーランド)

私の故郷はポーランドです。クラクフ市、ヤギェウオ大学の日本学科の学生で去年 10 月に日本に留学しました。ポーランドはアジアではあまり知られていない国だと思いますので少し紹介したいと思っています。

ポーランドは東ヨーロッパの国の一つとして西からドイツ、南はチェコとスロバキア、東はウクライナ、ヴェラルーシュ、リトアニア、ロシアと国境になります。北の方に自然な国境バルト海があります。スラブ系民族の一つで言葉はポーランド語だけでもチェコ語やロシア語に近いです。

ポーランドは日本より寒い国だけれども四季は、はっきり区別できます。特に冬は静かで雪が多いしスキーがどこでもできます。しかし夏は三ヶ月間しかない。それで、その間ほんとうの暑さは二ヶ月間くらいです。秋は「金の秋」と呼んで黄色の方が多からず。春は始まると鳥の声が聞こえるようになるからとても嬉しい感じがします。

ポーランドの宗教は 90% ぐらいキリスト教のカトリックなのでポーランドの伝統や文化にキリスト教の特徴がたくさん入っています。どこの町でも必ず教会があって、いつも日曜日に一日に少なくとも三回くらいミサをやっています。

お正月よりクリスマスの方が大事だから、そのためみんな何日も前に色々準備したりとても急いでいます。料理を作るということだけではなく、家を掃除したり特別な飾りを作ったりします。しかし料理の中でキリストの象徴として一番大事なものは、鯉という魚です。焼いて食べるのは、一年間に一回しかありません。もちろん他の日に食べられないというわけではないけれど、クリスマスにもっとおいしく食べられるように多くの人は我慢強く一年中鯉を食べるのをやめます。

ポーランドは北は海、南は山で平らや丘のところがあって随分色々な景色を見られます。海の方で有名なりゾート地があって「三都市、グダニスク、グディニア、ソポット」という町があります。特に夏にはとてもにぎやかで観光客がよくきます。その時「ソポット フェスティバル」という音楽会が毎年行われます。世界中から色々な歌手が来て演奏します。その音楽会はとても有名でテレビでも放送されています。

しかし、冬が来たらやはり南の方がにぎやかになります。山の真中にある「ザコパネ」という町があって冬には大雪で真っ白でとても人気のある所です。町の大通りに民族衣装を着ている人もいるし、馬車のような馬がついている人が乗れる大きなそりがあって色々なところを楽しく観光できます。

その他、私がすすめる所は南にあるクラクフという町です。ユネスコ世界遺産に入っているし、随分古い町で建物の特別な建築がおだやかできれいです。町の中心に「ワヴェル城」という昔王様が住んでいたお城があって、ポーランドの伝統や文化の特徴をよくあらわしているし、少し歴史のことを教えてくれるかもしれません。町の広場の回りにある建物の地下にレストランやパブ、酒場などがたくさんあってそこのどことも違う雰囲気はお客様をひっぱっています。または、広場の回りに馬車が並んでいて楽しく町を回ってドライブできます。

ポーランドはやはりアジアの国と違っているし、西ヨーロッパとも違うと思いますから、ぜひ機会があればみなさんポーランドというか東ヨーロッパに来て下さい！



中国、内モンゴルの教育の現状

オルンゴワ

(中国)

内モンゴル自治区のモンゴル族人口は、1990年現在337万5千人で、モンゴル国の総人口225万人(1991年)より遥かに多いが、内モンゴル自治区の総人口から見ると、漢民族80.8%に対し、モンゴル民族15.7%を占めるにすぎない。他の少数民族は3.5%になっている。内モンゴル人と聞いたらモンゴル人だと思うのは大間違いです。皆さんは、モンゴルと聞いて「果てしない草原」をイメージすることでしょう。内モンゴルは本当に環境がいいし、旅行に行った人々にはいい思い出になるところがたくさんあります。一方、実際生活しているモンゴル人が厳しい環境の中でどの様に生きているか、外国の人たちに想像することは困難だと思います。まず「草原の水」の問題を取り上げてみましょう。

1: 70歳まで生きてきて一度もシャワーを浴びたことがない人がいる。(その人は怠け者ではなく、汚いかもしれないが、現実の生活ではしかたがない。)

2: 内モンゴルにいるモンゴル人は都市、草原、農村(農業やっている人々)三つに分かれます。都市部にいる子供たちの教育は日本と同様ですが、草原と農村では日本の田舎とは違う点があります。そこにある中学校の現状を取り上げてみます。

中国、内モンゴル通遼市科左后旗金宝鎮布敦中学には学生が270人、教師と教員をあわせて38人で、教師と教員の給料は2000年6ヶ月分2001年12ヶ月分2002年0月分支給されているだけなのです。原因は、地方財政の悪化です。内モンゴルは中国の自治区として中国の法律に基づいていますが、法律では当然なこととして「教師の給料を払わなければならない」とされています。法律と現実の矛盾は世界の国々にあると思いますが、教師の現実は悲しいものです。

この学校では井戸ポンプが一つあります。たった一つ



の井戸ポンプで教師、教員と生徒の使う水を賄っているのです。内モンゴルの冬は零下20度にもなりすぐ凍結してしまう恐れがあります。井戸ポンプが凍ると水が出なくなり、生徒たちの8割は寮に住んでいるので飲料水がなくなり、大変なことになります。

2000年の人口センサスの結果によると、非識字率が低下して、90年の人口センサスの結果に比べてさらに9.16%下がっています。しかし、内陸・辺境地区・特に貧困地区の非識字率は依然として高く、それが社会的進歩、経済発展を長期的に妨げている一つの要因であり、内モンゴルは非識字率が高い地区です。モンゴル民族、非識字人口の分布不平等の要因から見てもよい。

1. 地域間の不平等

中国は世界でも陸地面積が広い国の一つで、面積は約960万km²、自然地理条件が恵まれている沿海地区と自然地理条件が恵まれていない辺境地区のソフト環境は大きな格差がある。この現象が原因で辺境地区における「不就学」が高くなっている。

非識字率が低い地区は沿海地区である。自然環境に恵まれ、教育水準が高く、特に道路などのインフラが整備されているからである。逆に非識字率が高い地区は辺境地区である。これらの地区は自然条件が厳しく、自然災害が多い。そして教育水準は低く、道路などのインフラが整備されていない。1982年に比べて、90年の非識字率は沿海、山村、辺境地区のいずれも下がっているとはいえ、その間の格差は依然として改

善されていない。現在、中国の9年制義務教育は、都市と沿海地区では100%近く普及している。これに対して貧困農村、山村、辺境少数民族地区では多くの子女達が日常生活のため、働かなければならない。一方、義務教育といっても、学費、書籍費などの費用を納めなければならないので大変です。

2. 民族間の不平等

中国は多民族の国であり、漢民族と合わせて56民族から構成されている。人口センサスの結果によれば、2000年漢民族人口は11億5940万人、全国総人口91.59%を占め、少数民族人口は総計1億643万人で、全国総人口の8.41%である。

歴史、地理、交通、自然条件、民族風俗などの要因によって、少数民族地区の経済発展、教育の普及は非常に遅れているのが実情です。

3. 都市、農村の不平等

1982年の人口センサスによると、総人口は10.08億人であって、そのうち農村人口が79.51%を占め、8.02億人であった。1990年に総人口は11.34億人であって、そのうち農村人口が73.85%を占め、8.37億人であった。社会の保健および教育などのサービスの提供がほとんど都市に偏り、農村基礎教育の質も量も遅れている。中国では非農業人口と農業人口の2種類であり、都市の人たちは非農業人口になり、農村の人たちは農業人口に入っている。農業人口の人が非農業人口に変えることは難しい、農業人口の親たちは子供を都市に行かせて、勉強させようと思っても非農業人口に入っている人よりも高い学費を払わなければならない。ここから農業人口に入っている人たちの子供は生来の不平等であるように感じられる。

4. 行政管理能力の差による不平等

中国で、義務教育などの教育政策の実施は、中央政府および地方政府による行政管理体制に依存している。すなわち、国务院から省クラス（段階）の人民政府へ、（各省、市、自治区）それから省クラスの政府からそれぞれ県クラスの人民政府および郷クラスの人民政府へ政策が降りていく。このことによって、行政管理能力が高い都市部では義務教育がよく普及しており、逆

に行政管理能力が弱い農村部では義務教育はあまり普及していない。土地が広い中国では農村（遊牧）地方では人口が非常に拡散していて、行政的指導がすべての人々までに到達することは相当難しい。また、行政管理能力が低い農村部では、物的インフラも欠如しており、学校施設と教師はより一層不足している。したがって、教師と教員の給料が一年間遅れる悲しい現実にあります。内モンゴルのモンゴル人である私がこの様な現実を如何して改革できるのか？今、日本に留学してつくづく感じています。

WIN コンコードへ

カワドイ ジェニー

（ペルー）

日本での生活はこれまでの私の人生で、一番美しい経験でした。日本に来てから良い思い出がたくさんできました。WINコンコードの人々に心から感謝しています。親切に接していただき、楽しい時も悲しい時もいつも気にかけてくださいました。さらに寄付してくださったお金は、学校のお手洗いを修理するために使わせていただきます。生徒たちも必ず喜ぶと思います。私の国をサポートしていただきとても感謝しています。WINコンコードのメンバーがペルーへいらっしゃったら私のご案内します。



蘭つくり

権景姫

(韓国)

知り合いの方が飲んでいたお茶を蘭に注いでやりながら、6年間育てていても一度も花を見られないと残念がっていらっしゃる。私が「一年間まかせてくだされば、まちがいなくお花を咲かせ持って来ましょう」と言うと、半信半疑ながらも気軽に差し出される。

なにかを育てようとすれば、それについてよく知っておかなければならない。属性や生育条件、そして開花習性などに対する十分な知識を得たうえで、持続的な愛情をこめて世話したほうがいい。

あらゆる鉢植え植物は、水をたびたびやると腐ってしまう。ゆがんだ盲目的な愛がすべてをむだにするように。忘れた振りをしてすこしずつ水を置いて水を与えるのがこつである。

特に蘭は、夏は一週間に一回、冬は二週間に一回程度水を与えるようにし、蘭を取り巻いている石（蘭石）の表面が乾いたとき十分に与えた後、完全に排水ができたかを確認することも大切である。お花を咲かせたいときは、7・8月におよそ20日ほど水を与えず、日乾しにしなければならない。20日間とかんたんと言ったが、育てる立場から見ると、これはたいへんなことである。じりじり暑い夏に水を与えることができず、見守るだけの心地は気がもめて唇がかさかさに乾く感じである。ちょうど、腹ペコの子供にご飯がやれないお母さんの気持ちと言えようか。

植物でも、動物でも、試練があれば、克服しようとする意志があるものだ。そして適当な試練が人間をつくるという考えは、私の子育ての信念でもある。不足なく、すべてを与えるのは飼育であって教育ではないと考えるからだ。試練を克服したあとの達成感は一種の快感かもしれない。その快感を一度でも味わったなら次の挑戦を恐れない自信を持つようになる。

翌年の春。美しく咲いた蘭の鉢をお渡しする、「蘭の花は心の清い人だけ咲かせると聞いたんだが、権先生は良い人らしいね」とおっしゃって、からからとお笑いになった。



留学生生活を振り返って

ブイ ティ ロアン

(ベトナム)

ベトナムから参りましたロアンです。1999年10月和歌山にやって来ました。かねてより日本の大学で勉強する夢を抱いていました。しかし、在越の日本大使館から日本留学試験に合格したという通知が届いた時、嬉しい反面心配もしていました。行くならやっとできた8ヶ月の息子を国において行かなければならないからです。でも主人を始め家族、そして勤務先の上司、同僚が励ましてくれたから、思い切って日本へ留学しに来ました。来たばかりごろ、息子のことが心配でたまらないし、まだ母国の暮らしと異なる生活習慣に慣れないためいつも寂しそうな顔をしていたと言われました。その時中谷さんを初めWINの方々、そして先輩がホームシックに陥らないように日本人の友達を紹介してくれて、日本人と交際するチャンスを与えてくださいました。また、生活上、何か困ったことがあれば、電話一本で、WINをはじめ日本人の友人が来てくれて、本当に助かりました。部屋探し、引越し、バイト探しなどはWINの方々が居なければ、うまくできなかったと思いました。

それだけではなく、WINのお陰で旅行、日本人の家族との過ごしを通じてより日本文化に触れることができました。在日中、北山村のような普段個人旅行できない和歌山の遠い名所を見学でき、スキー、筏下りのような色々体験ができて、本当に嬉しく思っていました。私はWINの方々の家族に遊びに行ったとき、みんな私を家族のメンバーのようにもてなして、やさしく

心をこめて日本の文化の美しさ、すばらしさを伝えてくださいました。だから、どこに行ってもそれぞれに自然のすばらしさや日本の深い歴史を感じさせられ、文化の香りに含まれながらとても楽しい時間を過ごしました。

そういう雰囲気の中で、私は生活に困ったこともなく楽しい毎日を過ごすことができました。和歌山における生活は充実したものだったと言えます。

留学期間は本当にあっという間に終わりました。2年半の留学を終えるにあたって、私が望んでいたより以上の勉強ができ、教えていただいたことは私の将来に大きなプラスとなってくれると思います。ベトナムへ帰ってから、今までよりもっと大きな自信がもてるようになったことを大変嬉しく思っております。振り返ってみればいろいろな思い出が印象に残り、どこにいても WIN のこと、そして和歌山のことを忘れません。本当に長い間お世話になり、心から感謝の意を表したいと思います

その後の四年間

王 慧 華

(台 湾)

皆様お元気ですか？私は OK か（オウケイカ）ですよ！！いつも元気で世界のどこかで生き生きしています。和歌山大学を卒業してもう4年経ちました。指で数えたらもうこの年になってしまいました。

さて、皆様に私の現況を報告します。現在台湾の三井物産でセールスとして働いています。三井物産ってご存知のように沢山の部門があります。私は化学部門に配属されて、半導体業者にフォトマスクを売っています。この仕事は私にとってはかなりの挑戦力が必要です。特に、理科系ではない私はちんぷんかんぷんの話聞いて、どうしても理解できない時はつらいです。

だが、私はこの仕事は大好きです。今色々な本を読んでいて、自分なりに頑張っています。

日本から帰ってきて、あっという間に短い4年間が経ちました。この4年間、私にとっては知識吸収及び人生体験の連続です。最初正式に入社した会社は村田製作所でした。そこで働いたことにより、私は電子産業に深い興味が出てきました。大学にいた時に自分の将来に対して、色々な事を考えていました。だが、電子産業と関わる仕事に勤めることは、考えたこともありませんでした。社会に出て、違う分野に足を踏み出したことはいい感じです。それ以外に私は1年前に会社を辞めて、もう一回留学生の身分でカナダに留学してきたことも人生の勉強の一つでした。特にホームステイ先の両親の生活ぶり及び病院でボランティアしていたことは私に大きな影響を与えました。真実の人生って私にとっては、何がなか、何がなか、家族との絆、生活に対する態度、仕事に対する考え方、兎に角、カナダで沢山の事を考え直すことができ、これから有意義な生活を送っていきたいと思っています。

現在私は日本にいた時と同じで一人暮らしをしています。なぜならば、この仕事で台北市から新竹市（台北のもっと南にある）に引っ越したからです。一人暮らしは結構大変ですが、私は何があっても絶対に乗り越えられると自分のことを信じています。

以上は私からの簡単な現況報告です。

皆様 お元気でいてください。



カメラに写らない日本の写真

ティシエル モーニ

(ハンガリー)

日本へ来て、もうすぐ一年になる。留学するところは、関西だったら、町はどこでもいいという考えで、和歌山を選んだ。海がないハンガリーに住んでいた私にとって、この町は海に恵まれているすばらしい所だ。夏休みになって、日中よく海で泳ぎ始めた。

関西よりいい所を想像できない。奈良・京都を言うと、日本の歴史・伝統・文化であふれている。この町へ何回旅行しても、まだ足りないと感じる。同じ名所へ行っても、これは変化していて、いつも新しい面を見せてくれる。例えば金閣寺は、雨が降っていた冬の日を訪ねた時、自分の寒さを恥ずかしいと思う翁のように見えた。これに対して、太陽が輝いていた夏の日に行った時は、豪華な金色のびかびかをみんなに見せたがっているお嬢さんだった。

秋は高野山へもみじ狩りに行ってきた。奥の院の方へ歩きながら、とつぜん雨に降られた。万葉集に詠まれたような雰囲気だった。「しぐれの雨 間なくな降りそ 紅ににほへる山の散らまく惜しも」ハンガリー(たぶんヨーロッパのどこでも)の墓場は悲しい。ここ高野山の非常に高く太い杉に囲まれている墓の中をさまよって、言い表せない安堵と平安を感じた。

ある夜、留学生と一緒に、田舎の方へほたるを見に行った。私は、まだほたるを見たことないからとても楽しみにしていた。着いて、そこに見た景色は一生、印象に残るだろう。茶の畑を二つ分ける小川に沿って生える葦の中、上に鼓動のリズムに合わせて、たくさん小さな光が発して、消えて、光って、消えてもう真っ暗だった。ほたるの輝かしい舞と競いたがっている満月がこうこうと光を放っていた。

外国人が京都へ旅行したら、平安神宮をきっと訪ねる。ヨーロッパで慣れている建築とは異なっているきれいな建物だ。みんなに勧めたい。でも、めでたい朱色に染められた柱を感じしながら思ったのは、ここは写真にいい背景だけじゃなくて、神の家だ。けれども回りに観光客の騒がしさを感じて、自分に沈んで祈るのは難しい。これはしょうがない。世界の名所は全部旅行



家でやかましい。私もこのようなグループに属している一人だ。でも私の幸運なのは、日本の神社のものと静かな顔も見た。日本人に連れられて、都会の雑踏と遠く離れている油日神社を見に行ったら。森の一部分のように見える、小さくて古い神社だ。広い割れ目がいっぱい、もとの色の木の柱を触って、ここはひとつひとつの物、植物には神が住んでいると思った。杉の香りは昔の時代の匂いと混じっていた。

歌舞伎を見に行った。観衆が静まって、舞台上に最初の俳優さんが立った。その瞬間に、私のそばに座っていたおじさんが大きな声で、何かを叫んだ。かけ声を演技中にかける習慣を知らない私は、ちょっと怖くて「どうしてこの変な人がちょうど私のそばに座しているのか、どうしたらいい、他の席を探そうか」と考えていると、うしろからも、誰かが分からない言葉を叫んだ。これはもうあやしいと思いながら、舞台の出来事も見物席の出来事も、注目を区分して見守った。江戸時代にはきっとみんなかけ声をかけて、劇を楽しんだのだろう。今は少ない昔の伝統を守っているおじいさんしか、俳優さんのすばらしい演技を応援しない。この習慣が失われたら残念だと思った。

巨大なスーツケースにも入れられないようにたくさん印象・体験・感情を頭に心に詰め込んで、国へ帰ります。これは私一人の努力ではない、みんなのご協力をありがとうございます。とくに WIN コンコードの人々に。ありがとうございました。

WIN コンコード 表彰される

留学生受け入れ制度百年記念式典が、2001年11月2日 天皇陛下御在位10年記念事業の一環として建設された国際研究交流大学村（東京）の「プラザ平成」において天皇皇后両陛下をお迎えして挙行政され、留学生の受け入れ等の交流に関する支援活動又は、留学生に対する教育活動を行い、顕著な功績があった、18人、71団体が文部科学大臣により表彰されました。WIN コンコードは1991年7月設立以来、10年にわたる継続した留学生支援活動が認められ、71団体のひとつに選ばれ、文部科学大臣より表彰状と記念の楯を頂きました。皆様の御協力に心から感謝申し上げます。



2001年度 活動経過

- 4月7日 新入生歓迎花見（和歌山城）
- 5月12日 WINコンコード総会・交流会
- 8/25～26日 サマーキャンプ 清水町（海瀬様宅）
- 9月24日 第3回留学生の故郷を語る集い
（ペルー、タイ）
- 11月11日 大学祭 模擬店協力
- 12月23日 忘年会（ボーリング、カラオケ）
- 1/1～3日 お正月
ホストファミリーのホームパーティ
- 2/22～24日 会社見学とスキー旅行
トヨタ会館とトヨタ自動車組立工場
めいほうスキー場
- 3月2日 第4回留学生の故郷を語る集い
（中国、内モンゴル）
- 3月3日 ひな祭り（松島様宅）
- 3月25日 卒業生を送る会

年 間 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与
ホストファミリープログラム
生活情報提供、相談



サマーキャンプに参加して

福本 真梨絵

(日 本)

私は、今まで一度もキャンプに行ったことがなかったので、誘ってもらったとき、とてもうれしかったです。最初、大人の人ばかりですごく緊張し、留学生の人達としゃべれるかなあと思ったり不安だったけど、みなさん日本語でしゃべってくれたのでホッとしました。川で泳いだり、清水温泉に行ったり、流しそうめんを食べたり、バーベキューの火のおこし方を教えてもらったり、どれも私にとっては初体験だったので、楽しかったです。

一番心に残った出来事は、中国人の人と一緒に中国のトランプゲームをした事です。初めの方はぜんぜん分からなかったもので、横で見ていると途中で「やってみる？」と聞かれたので、覚えて友達に教えてあげようと思ってたのに、結局最後までアドバイスをしてもらいっぱなしでした。日本のトランプゲームにはない難しさでした。

あと、一番勉強になったなあと思った事は、各国の「おはよう」と「こんにちは」と「ありがとう」と「さようなら」を覚えてもらった事です。タイでは女性と男性で言い方が違ったのでびっくりしました。「おはよう」とか「こんにちは」とか区別しない国もありました。発音が難しいので、ビデオに入れてもらいました。がんばって覚えようと思っています。

来年も参加したいです。



新留学生紹介

大学院の部

・Myat Myat San (ミヤット) ミャンマー

去年の10月に日本へ勉強するために参りました。三重大学で日本語を六ヶ月勉強しました。今から和歌山大学で高校の化学の教育の勉強をします。私はミャンマーで教員でした。趣味は、編み物です。休みの時は、音楽を聞きながら何かをすることが好きです。日本へ来た時、いろいろなところへ行きたいです。日本は全部がおもしろいです。日本へ初めて着いた時、会話も食べ物もちよっと困りました。日本語がぜんぜん分かりませんでした。その時、三重大学の先生達と学生達にいろいろ手伝っていただきました。日本語を六ヶ月勉強した後では、少し分かるようになりました。日本人と話した時、早く言ったらあまり分かりません。いつも「ゆっくり話して下さい」とお願いしました。日本人は親切なので、私達によく分かるようにゆっくり話して下さいました。私の会話が間違ったら、正しく説明して下さいました。でも、今は日本の生活にも慣れました。専門の勉強をする間、機会があったら日本の文化も知りたいです。和歌山でもいろいろ手伝って下さって、皆さんありがとうございます。

・Sein Sein Khin (セイン) ミャンマー

I came from Myanmar. Last year October 2001, I studied Japanese Language in Mie University. Now I study my major of History in Wakayama University. Japan is the developed country in the world. Japanese people and we the Myanmar are alike generosity, kindness and hospitality. As a keen learner of History, I would like to visit to Historical Museum while in Japan. I would like to see the Traditional Costume known as Kimono which is no more in use now. Japanese Government Scholarship is a golden opportunity for my country. As for me, I am glad to have a good change of study in Japan, I would like to study the Japanese Language thoroughly. At now, Myanmar people are mostly interested in Japanese Language. I hope it would become the International Language in the near

future. I would be very grateful to Japanese Government, Japanese people and authorities who sponsor our scholarship and I am determined to try my best to strengthen our existing friendship between our two nations. Lastly, but not the least I must say very many thanks to all the Japanese people for their kind co-operation and co-ordination especially in our educational field. I would utilize my study in Japan for the sake of my country on my return home.

・ Ortiz Ruiz Maria Guadalupe (オティス) メキシコ
私の専門は教育です。前は五年間小学校で働きました。この小学校はメキシコシティの中です。去年 10 月から日本に住んでいます。前は三重県に住んでいました。今から和歌山大学で私の専門を勉強します。和歌山市と和歌山大学は本当にきれいな所です。そしてみんなは、とても親切です。よろしくお願いします。

・ Rodolphe Saugier (ロルフ) フランス
I'm a fifth year student in an engineering school in France, called the UTBM (University of Technology of Belfort-Montbéliard). My specialty is computer graphics. I'm following an internship at Wakayama University, in an Opto-Mechatronics laboratory. This is a final 6 months internship, and after it I will get my diploma. Some of my hobbies are: Jogging, computers (but not all the time!), learning Japanese, reading...

・ 権 景 姫 (コンキョンヒ) 韓国
韓国にいた時は日本語を教えていました。父が公務員として、派遣され、家族同伴で、3 年間広島で暮したことがあります。ちょうど、大学を卒業したばかりだったので、父を手伝い、韓国語を教えていました。それがきっかけになって、韓国へ帰ってからは日本語を教えることになりました。40 才になって、もうすこし勉強したいとかねてからの夢を実現するために大学院に進学し、修士号をとりました。今は大邱にある国立慶北大学で非常勤講師として勤めていながら、同大学の博士課程に在学中です。教えながら勉強するの

はとても忙しいけれど、両方とも楽しいので大満足しています。もちろん、家族の協力も欠かせないポイント。三大家族で、夫は建設会社に勤めていて、息子は今年ちょうど二十歳で、兵隊に行っています。木やお花などの名前をおぼえるのに関心を持っていて、蘭を育てるのが上手だと言われています。日本には一年間いる予定で、友だちをいっぱい作りたいと思っています。よろしく!

・ Elitsa Marinova (エリ) ブルガリア
外世界へ開く過程中的の東欧国、ブルガリアから来ました。他の若いブルガリア人のように、私もその過程に力を貸して、ブルガリアと日本の共通点を明らかにしようと思っています。これこそは、私の研究の目的です。ブルガリアと日本の昔話における同様のキャラクター、内容、テーマなどに興味を持っています。これがブルガリア人と日本人の心が親しいと証明するのではないのでしょうか。

・ 劉 軍 (リュウ グン) 中国
私は天津師範大学で2年間の短期大学を卒業した後で、外貨系の会社に2年間就職した。22 才の時、日本に来た。知らず知らずもう4年間になった。もちろんこの4年間ずっと岡山県の吉備国際大学で勉強した。最初日本に来た光景が目の前に浮かびます。日本語をあまりしゃべれなかったし、日本人の習慣もぜんぜん分からなかった。でも学校の先生たちがいろいろなことを教えてくれた。やっと大学を卒業した。和歌山大学に入学ができることになった。この間、たいへんだったのに、日本人の心の優しさをよく感じた。これからもっともっとたくさんの日本人の友達ができることを望んでいます。よろしくお願い致します。

学部生の部

・ Karmyshakova Ayocerim (アイ) キルギス
はじめまして、私はキルギスタンから来たアイです。キルギstanは、70 年間旧ソ連の中にあつてソ連がなくなった後、独立した。キルギstanは自然がとてもきれいな国でアジアのスイスとも言われています。私は文部省の奨学金で日本に一年間来ました。そして日本のお正月も体験しました。キルギstanでは、お正

月はもっとも大きな祭りの一つです。クリスマスはしないけどクリスマスの木はお正月の木といわれて 12 月始めの頃、新年になるまでずっと飾って家におきます。そしてクリスマスのサンタさんもお正月お爺さんといわれて彼もお正月に来ます。一人じゃなくてお嬢さんを連れてきます。彼女はみんなにプレゼントを配ります。12 月 31 日 12 時になるとみんなシャンパンを開けて良い新年になるようにって飲みます。花火も必ずあります。それからみんなで朝までお正月木を回って踊ったり歌ったりします。もちろんこの日おしゃれな服を着てみんなきれいになります。今年のお正月はロシア人の友達と京都へ行って八坂神社へ行きました。神社に来た人々はいっぱいいて、私達はほんとうにびっくりしました。多くは若者でした。三日間毎朝おせち料理を食べて日本のお正月を体験しました。

・郝 秋 香 (アキコ) 中国
中国の山東師範大学から来た留学生です。日本語、日本文化研修生として和歌山大学で一年間勉強します。どうぞ、よろしくお願いいたします。私は中学生の時からずっと日本に興味を持ってきました。戦後の日本は驚くべきスピードで発展して短い時間で世界一流の経済大国になったのは奇跡とも言えるでしょう。どうしてこんな発展ができたのかを研究したいです。発展途上国の中国は、日本発展史から取り入れるべきものを身につけたいのです。また、大和民族は勤勉で協調性のある民族です。そして自然に親しく、小さい所か

ら大きな道理を見抜けるのが、強いです。生花や茶道など伝統的なものは特別な美が輝いて、魅力的です。日本の文化の不思議なものを研究したいです。

・ Danko Andrea (アンドレア) ハンガリー
はじめまして。2001 年 10 月から和歌山大学の教育学部の研究生として、一年間日本語の言語学などを勉強しています。今年の 9 月に国に帰って勉強を二年間続けて卒業するつもりです。専門は言語学であるが、伝統的な日本の文化、お祭などに興味を持ち、できればたくさん旅行して日本を見たいと思います。よろしくお願いします。

・タイ チィ ミン (チィ) ベトナム
はじめまして。ベトナムのビソロン省から参りました。チィと申します。日本に来てからもう 4 年経ちました。私は和歌山に来る前に愛媛県の弓削高等専門学校で、情報工学を勉強しました。弓削島というのをご存知でしょうか。その島は瀬戸内海にありまして、きれいな自然に囲まれ、そして、そこの人々はとても暖かい人々です。今年の 4 月に 3 年生として和歌山大学の情報通信システム学に編入学します。和歌山にも WIN コンコードのメンバー達のような暖かい人々がおられて、とても嬉しいことです。和歌山での一年目に国際交流会館に住むのは交流活動のチャンスが色々あり、そのような活動を積極的に取り込んでいきたいです。皆さんよろしくお願い致します。



・崔 丹 丹 (サイタンタン)

中国

中国の瀋陽から来ました。高校の時は、日本語と英語と他の科目、例えば物理、化学、数学を勉強しました。子供の時から日本に留学することに憧れていました。だから、去年の10月に高校を卒業してすぐ、日本に来ました。ずっと京都の日本語学校に通っていました。今年4月に和歌山大学のシステム工学部に入学しました。学科は環境です。私の趣味は、音楽を聞いたり、映画を見たり、本を読んだりしています。好きな運動は、スケートとか、水泳とか、テニスとかいろいろなことがあります。私の理想は四年後、とてもいい大学院に進学することです。自己の専門を深めることです。両親は、私の将来のために、休みもなく一生懸命に働いてくれました。私は、必ずがんばってがんばって、一生懸命に勉強します。

・Pamukcu Banu (パヌ)

トルコ

私が日本語を勉強し始めた理由は漢字のことである。もともと絵のような字を書くことが大好きで、子供の時に自分でしか分からない絵の字のアルファベットを作ったこともある。漢字を見ると、子供の時作ったアルファベットを思い出す。木によりかかって休んでいる人を表す「休」という字や水の流れを表す「川」という字などがイメージの作物である。私はこの想像力がはつきりみられる日本の文字に興味があるから日本語を習い始めた。そして、日本語は勉強すればするほどますます面白くなってきた。日本語を勉強するうちに日本が欧米と大きな相違をみせているある部分に気がついた。それはタテ社会の人間関係で構成されている日本社会であった。今は、漢字のほか、日本タテ社会に関心を持っている。日本にいる間に日本社会の中で生活しながら、日本の社会構造は現在どうなっているか勉強していきたいと思う。

・時 光 (トキ ヒカル)

中国

趣味は、音楽を聞くことや友達と話すことや旅行などいろいろあります。和卒後は、まだ分かりませんが、たぶん大学院に入ります。私の親戚はみんな日本にいますので、できれば将来日本で生活したいと思います。

・湯 斉 (トウ セイ)

中国

中国の上海から参りました。年は25才です。前は京都の日本国際外語学院で日本語を2年勉強して、今年3月に卒業しました。他の大学の試験を全部落ちた。和歌山大学は最後の大学で、合格したからとてもラッキーと思います。私はスポーツがとても好きです。特に卓球とサッカーが大好きです。今年6月のワールドカップを見に行きたいです。みんなと仲良くして友達になりたいです。

・Tuty Rahiza Binti Sajat (トゥティ) マレーシア

高校生の時、いつも留学したいと思って日本で留学するなんて、夢にも考えなかった。マレーシアでは2年間ぐらい頑張ってやっと試験に合格した。3月25日に関西空港についた後、なんとなく悲しくてさびしく感じた。なぜそんな感じになるのか私も分からなかった。たぶん今年和大に入る学生はマレーシアから私一人しかいなかったからかもしれない。でも会館にいる友達と先輩のおかげで和歌山で過ごす間、だんだん楽しくなって来た。私の「nickname」は「トゥティ」だ。もうすぐ誕生日が来ると20歳になる。兄弟は私を入れて4人で2番目だ。姉、妹、弟がいる。辛い食べ物が好きだ。私の趣味は音楽を聞くことと小説を読むことだ。日本に来たのはもちろん勉強のためだけど、できれば4年間の間に色々楽しいことをしたい。日本の文化とか日本全国へ旅行するなどだ。じゃ、よろしくお願いします。

・史 琳 晶 (シ リン ショウ)

中国

日本の人はとてもやさしいですから、日本に留学しました。私の興味はいろいろあります。書道、ピアノ、Classic Music、珠算、暗算、スポーツなど。私の性格は朗らかだ。でも静かなことも好きです。今私は他の国の友達はとても多い。友達は人生で一番重要なものだと思います。私は学習に対していつも頑張ります。将来の理想のために努力します。好きなことば「努力すれば道はおのずから開けてくる」私の友達は晶晶(ショウショウ)と呼びます。みんな私をショウショウと呼んでくれていいですよ！みんないつも私にとって友好です。どうもありがとう。My English name is Christina! 一緒に頑張りましょう！





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で、地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太 2201-339

TEL073-459-3888 FAX073-459-3889

Homepage : <http://www.infonet.co.jp/aso/win/index.j.htm>

E-mail : win@infonet.co.jp